

平成 30 年度 第3学年 授業改善推進プラン

	課題(児童の実態、学習状況、指導の実態)	改善プラン(課題の改善プラン、具体的手立て)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 読書の習慣は身に付いているが、読む本の分野に偏りが見られる。 漢字練習に熱心な様子が見られるが、さらに習った漢字の定着を図りたい。 文学的な文章を読み味わうところまでは、読み取れていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の学習に合わせた図書の本を紹介したり司書教諭におすすめの本を聞いたりすることで、読書量を増やし、分野も広げられるようにする。 書き順を声に出して確認し、意識させることで正しく漢字を書く習慣をつけさせる。 既習漢字を使えていないときは、その都度、書き直しをさせるなどして、漢字で書く習慣をつけさせる。 言葉や表現に着目させながら、物語の情景や登場人物の心情を考えさせる学習活動を行う。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に学習に取り組んでいる。 見学等好む児童が多いので、活動を通して分かることで喜びを味わわせたい。 小単元の終末場面では、調べて分かったことを整理するだけの時間にならないようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決的に授業を進める。学習したことを生活の中で置き換えられるような授業を展開する。 各小単元において、児童に習得させなければならない知識を捉え、「何を」調べさせ、「何を」考えさせるかを明らかにする。 小単元の終末の時間では、学習問題に立ち返り、調べたことから考えさせる学習活動を行う。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別の学習に慣れ、すすんで「問い」に関わり、問題解決学習を楽しんで取り組む児童が多い。 自分の考えの根拠を図・式・言葉・操作などで表し、それらを用いて自分なりの言葉で説明できるようにしたい。 自分の考えは伝えられるが相手の考えに関わり合い、考えや方法を「共有」する場面には課題があり、話し合いスキルを育てるなど充実させるための手立てが必要である。 問題解決学習にはすすんで取り組むが、基礎的な技能の習熟が課題である児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 考えなくなるよう課題や導入場面を工夫し(ICT教材等や具体物も効果的に活用)、児童が問題に関わり「問い」をもてるようにする。 児童が互いの解決方法や考えにすすんで関わり「共有」できるよう、教員は児童から「引き出した言葉」を明確にし、発問を工夫して話し合い場面の充実を図る。 どの児童も主体的・対話的に学習に取り組めるよう課題・教材・導入を工夫し、解決に必要な言葉を共有し、どの児童も発言できる機会がもてるよう授業スタイルを工夫する。 考えや方法もかけるよう「考えがみえる」ノート指導を徹底する。また、よいノート記録についても全体で共有していけるようにする。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 観察に意欲的に取り組む児童が多い。安全面や正確な測定の方法などを常に意識できる力を身につけさせたい。 結果と予想を比較することはできるので、そこから考えられる気付きや疑問を表現できるよう指導していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時のねらいを明確にし、それを達成するにはどんな実験をしたらよいか考えさせ、考える中で安全面や正確性を考慮できるようにする。 考察にどんなことを取り入れるとよいか具体的に示し、必要に応じて思考するヒントを与える。 自然の体験(観る、触れるなど)を多く取り入れることで、興味・関心をより深める。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 体でリズムを取りながら明るく元気に歌うことができる。 リコーダーについては、非常に関心が高く練習も熱心に取り組んでいるが、指の細かい動きや息の調節などが苦手な児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の歌声を大事にしつつ、発声練習や歌唱曲の中で、響きのある歌声で歌うことの気持ちよさも感じさせていく。 指の体操やレベルに応じた練習曲を用意するなどして、確実に基礎的な力がつくようにしていく。
図工	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶、授業規律、片付けなどよくできる。 造形的な活動についてはとても意欲的である。 お互いの活動をよく鑑賞し、自分の作品に生かしている様子もある。お互いに話し合いが生まれるとさらによい。 	<ul style="list-style-type: none"> とにかくけがの危険があるようなことについては、徹底して指導を行う。けがのない授業で、児童が造形的な能力を最大限発揮できるようにしたい。 共同で制作を行うような授業を取り入れ、お互いの考え方や表し方の違いについて思考を深めてもらいたい。
体育	<ul style="list-style-type: none"> リレー等では、何回も繰り返し練習し、バトンパスをよくしたり記録を伸ばそうとしたりする意欲が見られる。 走ることやボール運動に興味をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動のポイントを知らせ、技能の高まりが実感できるようにする。 ボール運動では、誰もが楽しめたり活躍できたりするルールを児童と一緒に作っていく。 休み時間も外遊びを推奨し、体を動かすことに抵抗を低くしていく。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 教科書では、それぞれの課題について考えることができるが、さらに、実生活に活かそうとする児童に育てたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ねらい」に向けて、的確に授業展開が行われているか検証し、児童が実生活で生かすことのできる教材研究や教材選定に取り組む。 人の気持ちを考えられるように役割演技(ロールプレイング)を取り入れた授業を行い、自分の思いを伝えることのできる子どもを育てたい。